



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第114号

2013.7.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

- ーカワシンジュガイ探検隊について
- ー活動報告について

活動報告

- ー大潰山の春植物観察会
- ーモリアオガエル観察会
- ー湿原の昆虫観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）

観察会案内

- ーカワシンジュガイ探検隊
- ー千町原 夏の保全活動
- ー可愛川の水生生物観察会

おしらせ

●カワシンジュガイ探検隊のおしらせ

昨年に引き続き、損保ジャパンの SaveJapan プロジェクトの支援を得て「私たちのすぐ近く、ひろしまの素敵な生き物の世界を再発見！」をテーマに観察会を実施します。今回は北広島町の天然記念物であるカワシンジュガイを探す観察会です。どんな発見があるのでしょうか？どうぞご参加ください。詳細は裏面の観察会案内をご覧ください。

●活動報告について

6月29日に行われた「霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会」の活動報告は、都合により次号にて報告させていただきます。

観 察 会 報 告

● 大潰山の春植物観察会

開催日時：2013年5月18日（土）9:30

講師：暮町昌保、佐久間智子

春の里山として定番となった大潰山の観察会には12人の参加者が集いました。今回も大佐スキー場のレストハウスをお借りして、登山の前に大潰山の来歴を学習しました。地元の苅屋形地区からの参加者もあり、佐久間先生のお話に加えて、昔の山との関わり方などもお聞きすることができました。

室内での講義の後、車に分乗して登山口に向かいます。車から降りると、早速観察の始まりです。暮町先生から「昨年の観察会で見つけた」フデリンドウを見せて下さいました。足下をよーく観察すると、小さな花がたくさん開いています。

登山道に入ってから、ツリバナ、ミヤマガマズミ、ウスギヨウラクなど、低木がたくさん花を付けていました。今年は特に花が多いように感じます。また、林床には、今日のメインであるスミレの仲間が咲いていました。ニョイスミレがちょうど盛りの頃で、オオタチツボスミレ、タチツボスミレ、スミレサイシンなどは既に終わりかけでした。登山道の途中には、チゴユリ、タチシオデ、コケイラン小さな草花が見られました。ギンリョウソウはまだ顔を出し始めたばかりでした。

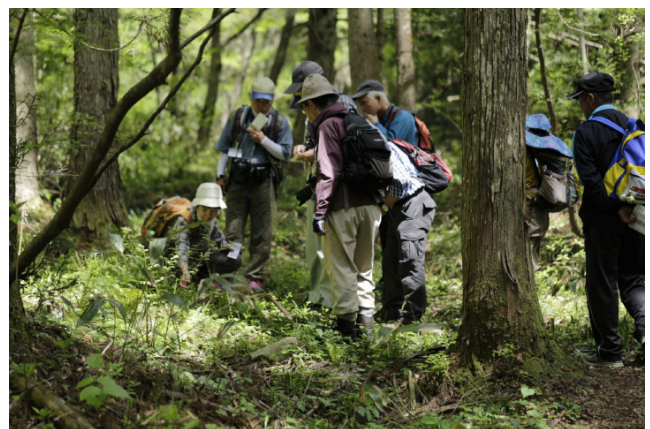
大きな炭焼き窯跡のところで一休みすると、そこから先は少し急坂になります。頂上に近づくるとダイセンミツバツツジの株が増えてきます。ただ、今年は花付きが少ないようで、登山道では花が少ないように感じました。登山道沿いに見えたメギヤアケビの小さな花には、参加者から「良く見るとかわいい！」と感激の声が上がっていました。フモトスミレやニオイタチツボスミレなど、登山道の下の方では見られなかった種も観察できました。

山頂では、晴れ渡った空の下で、お弁当を食べ、大佐側の下山ルートに向かいました。こちらでは、レンゲツツジやキシツツジなども見られました。とても急なルートなので、一気に湿地までくだりました。湿地ではバイケイソウやハンカイソウが大きな葉を広げていました。

最後に、大佐スキー場の駐車場でまとめをして解散しました。天気も良く、登山には最適の日でした。花も多く、ツツジの仲間、スミレの仲間を堪能できました。[しらかわかつのぶ]



大佐スキー場のレストハウスで、佐久間先生のレクチャーを聞いた。



大潰山は、登山口から見どころがたくさんある。



ウスギヨウラク（ツリガネツツジ）.



ふもとではレンゲツツジが咲いていた.



炭窯について話される暮町先生.



グレンデの下で、まとめをする佐久間先生.



カシワ。芽生えとともに咲く.

【みなさんの印象に残った物】

「ツツジの種類がよく分かりました」「フモトスミレが2輪あったこと」「天気も良く楽しかった」「ダイセンミツバツツジがたくさん見られた事」「特にスミレ類の種がよくわかりました(3)」「山の上の方にもキシツツジがあること」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「花だけではなく、木も教えていただいてよかったです」「とっても勉強になりました。他の季節にも参加したいと思います」「カラスシキミを発見できず」「これからも勉強したい」「スミレの解説が非常に良かった」「初めて参加させていただきました」「ワイワイ楽しかった(3)」

観 察 会 報 告

● モリアオガエル観察会

開催日時：2013年6月15日（土）9:30

講師：内藤順一

シトシトと雨が降り、カエルには嬉しい天候の中、損保ジャパンのSAVEJAPANプロジェクトと共催で、モリアオガエル観察会がおこなわれました。今回の講師は内藤先生です。

モリアオガエルは、雨の降る夜に産卵します。今年は、まとまった雨があまり降らなかったのですが、今日の雨は観察会としては絶好のタイミングだそうです。会場である豊平地区の原東生活改善センターに33名が集合し、事前学習をおこないました。

今回観察する場所は、北広島町では最大の繁殖地であり、毎年150～200個ほどの卵塊が確認されていることや、普段は山の中に生息し、繁殖期になると溜め池などの上に張り出している木に集まって産卵すること、近辺で見られる他のアオガエル科との見分け方などを教えていただきました。

次は実際にモリアオガエルを観察しに、繁殖地の溜め池に向かいました。溜め池の周りでは、多くのモリアオガエルやいくつかの卵塊を見つけることができました。内藤先生は、「今、ここにいるのは全てオスで、鳴き声で自分の存在をアピールしながら、メスが来るのを待っている。卵塊の数は今は少ないが、今日の雨のおかげで、明日以降は増えていくだろう」と話されました。また、別の枝ではシマヘビも見つかりました。繁殖期の溜め池は、モリアオガエルだけでなく、それを狙って天敵であるヘビもやって来るそうです。溜め池から戻る間際には、一際大きな合唱が聞こえました。一斉に鳴いて、次第に引いていき、また一斉に鳴き・・・の繰り返しは、まるで音の波を受けているようでした。

今回は産卵の様子は観察できませんでしたが、オスの姿や合唱など、待ち望んでいた雨に呼応するモリアオガエルをじっくりと見るのでできた観察会となりました【ありみつまさかず】



室内で事前学習，写真の中にモリアオガエルが何匹いるかな？



近くに車を止めて、歩いて溜め池に向かう。



途中でつけたアカハライモリ。裏返すと名前の通りに腹部が赤かった。



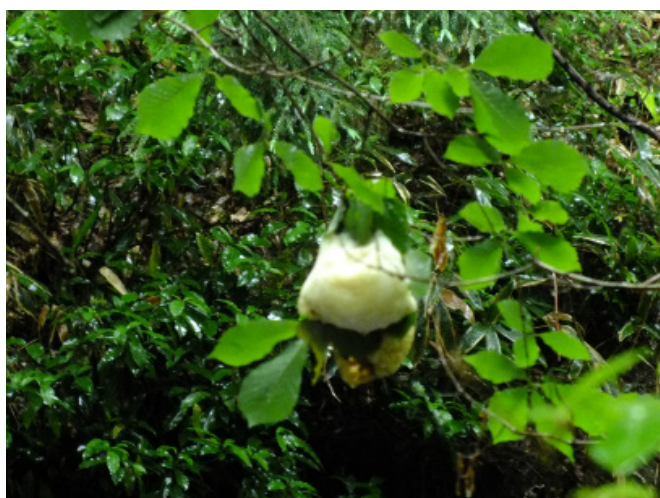
溜め池に到着。近くの木をよーく見てみると…。



溜め池を背に集合写真。この後、オス達の合唱が始まった。



枝の上にモリアオガエルを発見。この個体は斑紋が少ないようだ。



木の枝に産みつけられた卵塊。全部で24個見つけた。

【みなさんの印象に残った物】

「実地での見学会で、間近で観察できた事です」「ビデオで、ヘビがカエルを食べた場面を初めて見た」「モリアオガエルが思っていたのより大きかった」「モリアオガエルを見れてよかった(4)」「一ヶ所にモリアオガエルの卵塊が多数あるのに感動した」「モリアオガエルの大合唱(3)」「森で観察できたこと」「アオガエル科について少しわかった」「子どもたちがイキイキとフィールドをまわっている」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「モリアオガエル初めて見ました。とても勉強になりました(2)」「たくさんカエルが見れてよかった」「環境がすばらしい」「他のカエルについても興味がわきました」「たまごが24個あってびっくりした(2)」「日頃自然に触れる機会があまりないので、子どもたちにいい体験をさせることができました」「モリアオガエルを見に行くのに、雨が心地よく思えました」「子どもたちと楽しく観察できてよかったです」「雨が降っていたが、むしろモリアオガエルの観察には良かった」「他のカエルについても考えてみたい」「とても説明がわかりやすかった」

観 察 会 報 告

● 湿原の昆虫観察会

開催日時：2013年6月22日（土）9:30

講師：岩見潤治・松田賢

心配されていた雨も上がり、昆虫達も喜ぶ天候の中、湿原の昆虫観察会がおこなわれました。今回の講師は、昆虫の専門家である岩見先生と、松田先生です。

高原の自然館に15名が集合し、歩いて湿原へ向かいます。初めに、自然館の周辺を飛んでいたチョウを採集して観察しました。翅の裏の模様からウラギンヒョウモンだと分かりました。また、黒い体と胸部の横の白い線が特徴的なキリギリスの仲間、ヒメギスの幼虫や、ウツギとその仲間の花粉や蜜だけを幼虫のエサとするウツギヒメハナバチ、里山の妖精とも言われるチョウであるアカシジミなど、湿原までの道でも、たくさんの昆虫が見られました。「雨が続いたので昆虫達が中々活動できなかった。今日は久しぶりに晴れたので、一斉に活動を始めている様子を観察できますよ。」と先生達も嬉しそうに話されました。松田先生が車道沿いでトンボを発見しました。ヒロシマサナエです。「数年前までは湿原の中でしか見られなかったヒロシマサナエが車道でも確認されたということは、個体数が増えているのでは。」と、実物と図鑑を見比べながら話されました。

水口谷湿原では、多くのトンボが見られました。ニホンカワトンボと、ニホンカワトンボより体が小さく、生息地もより小さな川を好むアサヒナカワトンボや、三角形の黄緑や黄色の模様が美しいサラサヤンマなどを観察できました。ヤンマ科は複眼が大きく、左右の複眼が広く接していることが特徴ということを知りました。水口谷湿原から霧ヶ谷湿原へと向かう道は、樹林との距離が近いためか、セミの鳴き声がとても大きく聞こえました。この時期に鳴いているのはハルゼミとエゾハルゼミの2種だそうで、両方とも確認できました。植物の影で休んでいる個体も見つかり、ゆっくりと観察することができました。

霧ヶ谷湿原では、ヒメシジミやヒオドシチョウ、モンキチョウにトラマルハナバチなどが、吸蜜や花粉集めなどに夢中な様子で飛び回って

いました。急ぎ足の帰り道でも、観察は続きます。アスファルトの上にハバチを捕らえたムカシヤンマを見つけました、触れられる距離まで近づいても逃げる素振りを見せず、がっしりとした印象を受ける太い腹部や、捕食の様子をじっくりと観察できました。

2つの湿原を歩き、同定できたものだけで、38種類のいきものと出会え、どこに注目すれば見分けることができるかを教えていただき、湿原を歩く時の楽しみが増えた観察会となりました。[ありみつまさかず]

※観察会での採集は、広島県の許可を得ておこなっています。

※写真の一部を松田先生に提供していただきました。ありがとうございました。



実物と図鑑の写真を見比べる、胸部の模様からヒロシマサナエだと分かった。



水口谷湿原で昆虫を観察中。木道に出ているカナヘビも発見できた。



草影で休んでいたハルゼミ。普段は見上げるセミを身を屈めて観察する。



自然館前に集合してまとめをする。子ども達はまだまだ元気！



間近で見るトンボに視線が釘付け。

【みなさんの印象に残った物】

「アカシジミを見つけたこと」「ヒロシマサナエ、ムカシヤンマ、サラサヤンマ等多くの昆虫の仲間に出会えた事」「ヒメシジミの色と形」「色々貴重な虫が見れたこと、それも簡単に」「先生にいろいろと説明していただけたのでとても勉強になりました」「カメムシ」「セミに似た小さな虫（ツノゼミ）」「講師の先生が図鑑を調べて、“これがヒロシマサナエです”ってなったこと」「うつぎの花粉に卵を産むウツギヒメハナバチ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「羽化したてのチョウがいろいろいておもしろかったです」「梅雨の一休みに楽しく湿原が歩けてました」「多くの昆虫を見れて、名前がわかり楽しかった」「自然にふれられて、子どもたちもうれしかったみたいです」「目線を変えてみれば色々な物が発見出来た」「すごく楽しかった、また参加したいです」「先生たちのお話がわかりやすくおもしろかった。虫に興味が湧きました」「雨上がりだと虫が多かった」



橙、黒、白の翅模様が美しいアカシジミ。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原の植生調査（夏）

開催日時：2013年6月23日（日）9:30

講師：大竹邦暁，佐久間智子・白川勝信

今にも雨が降り出しそうな曇り空の中，霧ヶ谷湿原の植生調査が行われました。10名の参加者が高原の自然館に集合し，白川学芸員による，調査の手順や霧ヶ谷湿原の再生事業についての話から始まりました。

次に，霧ヶ谷湿原へ車で移動し，まず，車道に一番近いプロットで実際に調査手順を全員で見学しました。1m四方に区切られた場所（プロット）で，講師が植物の種名を確認し，参加者が植物の高さを測り，記録用紙に記入して行きます。毎回同じ場所で調査をすることで，その場所で，植生がどのように変わっているのかを調べることができます。

調査の手順を教わったあとは，今回の講師である大竹先生，佐久間先生，白川学芸員の班に分かれて調査を開始しました。湿原生の植物が大部分を占有していたり，逆に，水が行き渡らずに外来の植物が多い場所あったりと，プロットによって植生が違うことが見えてきました。途中，講師と交代し，参加者が植物の種名を調べる場面もあり，今回の調査で教わった植物の「見分け方」を実践することができました。

調査を終え，自然館に戻り，今回の調査で感じたことを話し合いました。「再生事業を施行した時と比べると，フランスギクなどの外来の植物が減っている」また「水の流れる場所に生えていたコウガイゼキショウも同様に減っている」との事でした。この事から「湿原の再生事業で土を掘り返した際に数を増やした植物が，霧ヶ谷が湿原に戻るにつれて，数を減らしているのではないかと，大竹先生や佐久間先生が話されました。

今回の調査だけで結論が出るというわけではありませんが，この調査を毎年続けることで，霧ヶ谷湿原の植生が変化していく様子を知ることができます。去年と同じように見えて，毎年変わっていく霧ヶ谷湿原を実感できた植生調査となりました。[ありみつまさかず]



霧ヶ谷湿原の車道を挟んだ向かい側。工事施工前に水を廻すと湿原に戻るか試みた。



木道に一番近いプロット。全員で調査を行った。



ススキの特徴は，中央に白い筋が通っていることを先生から聞いた。



こちらのプロットは導水路をまたぐ場所.



自然館に戻り、調査内容を報告し合った.



ミゾソバがほぼ占有している中、大きなアブラガヤが目立つ.



最後のプロットを調査する大竹先生と白川学芸員.

【みなさんの印象に残った物】

「植生調査のやり方について少しわかった」「植物が立体的に陣地取りをしていること. 植生調査に初めて参加して、その方法が興味深かった. ゆっくり観察すると1m四方に多くの植物がいるのにおどろいた」「背丈を測って記入するなど、普段できないことを体験した」「コウガイゼキショウが見られなかった. 水の流れが決まってきたように思う. 植物の堆積物で低い植物が生えていない. オオチドメが見られなかった」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「思っていたのとまたちがうことをしたので、すごくおもしろかった. 大竹先生が植物ひとつひとつの話をたくさんしてくださって勉強になり楽しかった」「腰が少々痛くなりました. 根気が必要だと思った. 調査を通して、植物の見る目が変わってきたと思う」「花の時期以外での見分け方を教えていただきました」「全体に植物はよく繁茂していた」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

●カワシンジュガイ探検隊

開催日時：2013年7月28日(日) 9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：内藤順一
準備：基本セット、水の中に入れる服装
 ゴーグル・あればシュノーケル
定員数：30名
参加費：無料
※今回はSAVEJAPANの支援を受け実施します。

北広島町の天然記念物であるカワシンジュガイを探検する観察会です。支流でカワシンジュガイを観察した後、水中メガネを付けて、水の中をのぞきながらカワシンジュガイやアブラボテをさがします。上流域で、水もきれいなので、川遊びにもなります。子供さんには必ず保護者が付き添ってください。

●千町原 夏の保全活動

開催日時：2013年8月3日(日) 8:00
集合場所：山麓庵
参加費：500円

夏の八幡で、一緒に汗を流しませんか？千町原の景観や草原生の草花は、この活動によって守られています。自分たちで手入れをした草原を歩く楽しみは、また格別ですよ。作業後には、涼しい山麓庵でみんなで昼食を食べますので、お弁当をご持参ください。かりお茶屋の定食も、ご注文いただけます(要予約、¥800)。保険手続きとお茶等の用意がありますので、必ず事前にお申し込みください

●可愛川の水生物観察会

開催日時：2013年8月10日(土) 13:30
集合場所：千代田中央公民館
講師：内藤順一
準備：基本セット、水の中に入れる服装
 ゴーグル、あればシュノーケル
定員数：30名
参加費：一般：300円
 賛助会員：100円
 中学生以下：無料

可愛川中流域にある上官井堰(壬生地区)下流でオオサンショウウオの調査をします。オオサンショウウオは文化庁の特別天然記念物で、採る、触ることのできない動物ですが、事前にオオサンショウウオについて学習したのち、現地でそのお手伝いをしてもらいます。身近で観察することができますし、オオサンショウウオや自然環境に対する、良き理解者になれると思います。



短く、集中的に雨が降った梅雨が明け、八幡にも本格的な夏がやってきました。カウンターに座って作業しているだけでも汗が出てきます。八幡では、ハンカイソウやノハナショウブ、クサレダマなどの花が、湿原を華やかに彩っています。「時間があれば湿原を訪れて、写真と涼を一度にとりたいなあ」と、考える日々を送っています。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info